

2. 地域からの報告 (1)「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子

農と自然を
見つめて

◎ 生きものとともに ◎
～消費者と生産者がともに創る地域
生協産直から交流事業へ～

←富士山 3776m
←矢倉岳 870m

理念
人 自然 絆を大切に
命を育む食と農で
豊かな地域を創ります

行動指針
手を携えて
耕そう
人と地域

NPO法人小田原食とみどり 事務局長 齋藤文子 2017.6.18

農と自然を
見つめて

NPO法人 小田原食とみどり概要

設立	2004年7月29日
理事長	鳥居啓宣
役員構成	理事10名、監事2名
個人会員	104名(正会員30名)
団体会員	7団体
職員	3名(正規2名、定時1名)
事務所	小田原市曾我岸531
指定管理	梅の里センター、曾我みのり館
交流人数	年間 延べ 3,425人
農の学校登録者	556名 /年(通年登録)
貸農園	14区画(16年4月開始10区画)
管理圃場	12ヶ所 1町歩 (1ha=10,000m ²)



小田原食とみどりが取り組む
交流事業の目的は
暮らしの中の課題解決

- つくる人、食べる人が、くらしの課題を一緒に考え、くらしやすく 豊かな地域を作ります
- 「農」を核とした活動で 地域づくりをおこないます
- 持続可能な 農業・社会・地域
⇒ 地域循環型・環境保全型農業の推進します
- 耕作放棄地を借りて「農の学校」で活用します
- 体験を通して 五感で遊び・学ぶ場を提供します

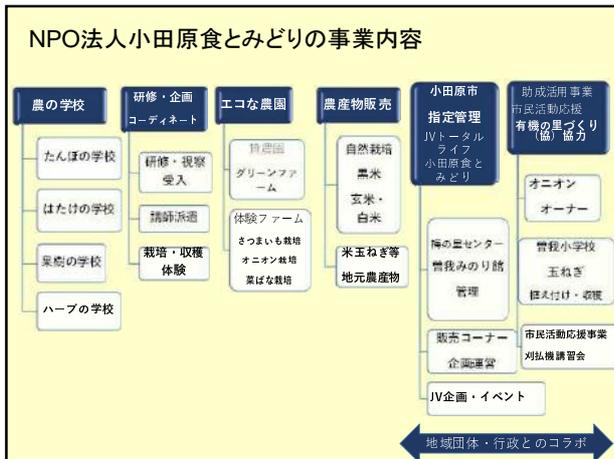
農と自然を
見つめて



わたしたちの役割
理念の実現→交流の事業化

- ◆産地の価値と想いを消費者に伝える
- ◆体験から学び、消費者の消費行動を変える
- ◆「賢い買物」をする目を養う。消費者食農教育
- ◆価値ある農産物の流通を応援
- ◆地域の環境保全
- ◆耕作放棄地の活用
- ◆生物多様性農法の実践
- ◆地域の食文化の伝承
- ◆コミュニティ 地域内連携

2. 地域からの報告 (1)「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子



2. 地域からの報告 (1)「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子

果樹の学校 体験コース&サポーターコース
みかん・梅・キウイ

*** 農家の暮らしを体験したり、作業を学んだり

体験コース
農家の果樹畑におじゃまし、家族で楽しい農業体験と交流をします

サポーターコース
農家の手伝いをしながら、作業を学べます

合同収穫祭

20 にじゅうまるプロジェクト 登録証

たんぼの取り組み
生きものがすみやすい環境づくりは、美味しくて安心なお米づくり

NPO 法人小田原食とみどり
たんぼの生物多様性向上10年プロジェクト

農の学校・貸農園 2016年度・12圃場
耕作放棄からよみがえり活用される農地約1ヘクタール

開始時期	用途	コース	圃場名	面積
1 2002	たんぼの学校	初級	家山子たんぼ	867㎡
2 2003	〃	中級自主	春みずたんぼ	1,081㎡
3 2004	〃	マイたんぼ	豊年たんぼ	1,595㎡
4 2008	〃	マイたんぼ	西大友たんぼ	500㎡
5 2009(復元)	〃	中級自主	家山子となり	714㎡
6 2013	〃	中級自主	ハラ園	1,017㎡
7 2001(復元)	ハーブの学校 はたけの学校	ハーブ 単作コース	ハーブ・ さつまいも/玉ねぎ	717㎡
8 2004(復元)	はたけの学校	初級	初級	752㎡
9 2012(復元)	エコな農園	貸農園	グリーンファーム	578㎡
10 2013	NPO使用	事務局・特別	NPO事務局	577㎡
11 2015	たんぼの学校	マイたんぼ	カワナたんぼ	1,593㎡
12 2016	たんぼの学校	中級・自主	オニオンたんぼ	1,000㎡
合計		≒3,330坪	≒1.1ha(町歩)	10,991㎡

たんぼの学校

初級コース 昔ながらのやり方

中級コース 機械を使用します

マイたんぼ
自主コース

インストラクター

昔ながらの農機具体験

機械の導入

2. 地域からの報告 (1)「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子

環境に優しい米作りをめざして

- ◀ 2002.4 たんぼの学校開校
- ◀ 2007.1 第1回合宿研修会「ふゆみずたんぼ」 岩淵成紀氏(NPOたんぼ)学習会
- ◀ 2007.6 第1回たんぼの生き物観察開始 林 隆夫氏 ◀ 2010.7第10回開催
- ◀ 2008.3 第2回合宿研修会「あなたにもできる有機稲作」福兼光国氏(民間稲作研究所代表)
- ◀ 2011.5 「有機で稲作」 東 利昭氏(MOA自然農法文化事業団普及員)
- ◀ 2015.12 たんぼの生物多様性向上10年プロジェクト参加登録

生物多様性農法
香米たんぼに挑戦

小田原めだかの棲む
ビオトープ作り
← 2007年
岩淵先生ご指導

耕作放棄地の開墾

たんぼの学校豊年倶楽部に呼びかけ、力を合わせて田んぼに復元→今は、黒米たんぼ

ゴミ、ガラス片の
除去、耕起、
土の山くずし等

圃場内の石、
ブロックの撤去

スロープづくり
のための土運び

機械入り口(スロ
ープ)作り

たんぼの一年が始まります

トラクター講習会
& 田おこし

たんぼの整備

■ 苗作り・
初まきからスタート ■

2条・5条の
田植え機で

初級コースは、定規
を使って手植え

2. 地域からの報告 (1)「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子

除草対策を実践



- ①田植え4日目に除草開始
- ②たんぼに入り、発芽した草を浮かせる。
- ③水で流す

除草に効果があると聞き、ふきのエキスを実験

メンバーが作ったチェーン除草器具を実験

糠を撒く



稲刈り・はざ掛け
脱穀・籾摺り・販売

籾摺り精米機

- ◆ ふるいにかけて、
- ◆ 大きなゴミを除く



色彩選別機で 黒米選別



たんぼで育てた豊年米
キヌヒカリ&
もちっこ黒米

できたお米の一部販売

- ・販売コーナー直売
- ・レストランに提供
- ・会員に販売
- ・ネットで販売

キヌヒカリ=590円/1kg
黒米=400円/150g

販売コーナー(梅の里センター) 2012.10オープン



- ◆ 生きもの観察会
- ◆ 生き物調査ではなく、観察会です
- ◆ 2007年～2016年(10年間)



2. 地域からの報告 (1)「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子



生きもの・植物観察(2016年7月24日)
調査結果

- ◆ 2013年24点
- ◆ 2014年36点
- ◆ 2015年33点
- ◆ 2016年31点

◆ 3班にわかれて
◆ ラインセンス
◆ 生きものの点数化

結果

- ◆ 2016年
- ◆ A群ギンヤンマヤゴ1種
- ◆ B群コオイムシ等5種
- ◆ C群アマガエル等10数種

◆ 植物は22種類採集できた



他県の参加者の感想は「小田原には生きものが少ない」

世界一田めになる学校 協力

春みずたんぼのピクニック

東京大学 鷲谷教授
大崎市、豊岡市、小山市、佐渡市
鎌倉市ガールスカウト
20014年7月





2. 地域からの報告 (1) 「消費者と生産者が共に創る地域」 齋藤 文子

神奈川大学「地域活性プロジェクト」
協力

Collage of photos showing university students and community members working together in a kitchen and outdoors in a field.

NPO会員専用貸農園
2016年から新規事業
エコな貸農園グリーンファーム

利用対象
中耕機講習会

はたけの学校初級コースを修了した人
環境にやさしい野菜作りを
したい人のための農園

会員限定

商品開発協力 ◆小田原特産「ブルーベリー」
「梅」ジャム

梅干講習会

ジャム開発お手伝い

Collage of photos showing jam development, blueberries, and a plum drying workshop.

ご清聴ありがとうございました

酒匂川